

10月31日まで南浜館で開催している特別企画展「果ての鉄道展」。今回の特集では、鉄道の過去・現在・未来から公共交通の在り方にも迫っている企画展の内容を紹介します。

果ての鉄道展

THE FARTHEST RAILWAYS EXHIBITION

特集 まくらざき Makurazaki



photo: 葛岡 克紀 (中原水産株)



photo: 葛岡 克紀 (中原水産株)



photo: 葛岡 克紀 (中原水産株)

果ての鉄道の過去

鉄道の過去を知る

枕崎に初めて鉄道が開通した昭和6年、それは革命でした。それまでは船舶が人力で運んでいた水産・畜産・農産物などの物資や人が、大量かつ安定して都市部まで運べるようになりました。これにより販路は全国に広がり、枕崎の経済、生活や文化を変えたのです。



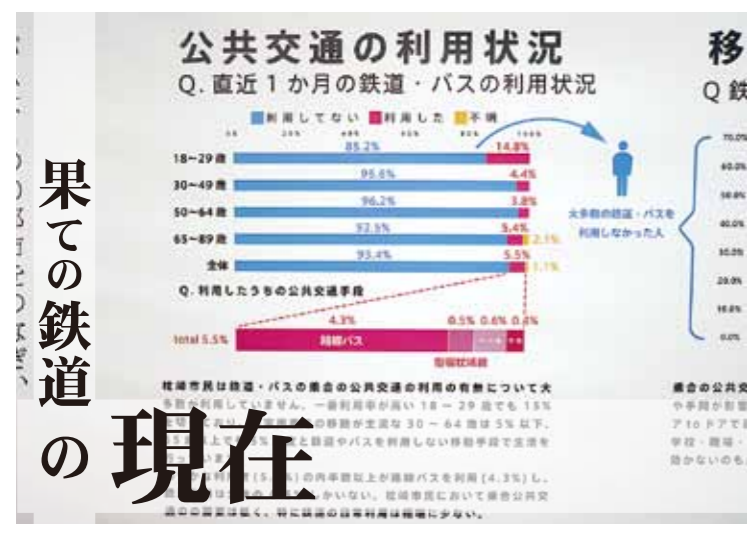
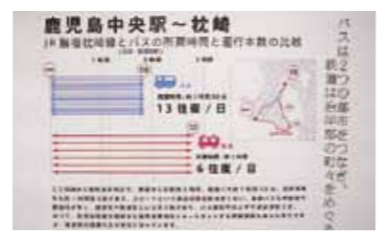
このエリアでは、懐かしい「南薩線」の写真の展示のほか、昭和中期に鉄道で東京に運ばれ、高品質な黒豚というブランドを築き上げた「鹿籠豚」の当時の様子を知る方々を取材し、記憶にしか残されていない輸送の様子を展示しています。



鉄道の現在を知る

いま、少子高齢化・過疎化で枕崎や薩摩半島では人口も鉄道利用者も大きく減少しています。かつて高嶺の花といわれた自家用車は、一人一台の所有が当たり前になり、道路整備も進みました。クルマさえあれば、鉄道よりも早く目的地に到着することができます。

このエリアでは、公共交通利用状況の調査結果から見てくる、都市部と果ての鉄道との格差と厳しさ、生活スタイルの違いなどを分かりやすく展示しています。



果ての鉄道の現在



枕崎市の皆さまへ

企画統括
株式会社イチバンセン
一級建築士事務所
代表取締役 川西 康之

枕崎市の皆さまにとって、鉄道はどのような存在でしょうか。日常的に鉄道をご利用される市民の方はほぼいらつしやらないと思います。でも、枕崎産の鯉節や鹿籠豚が有名ブランドに成長する過程で、鉄道が大きな役割を果たしました。過去の栄光、少子高齢化と過疎化の現在、そして未来へ。

いちばん大事なことは、これからもずっと安心して枕崎に住み続けること。「自家用車やガソリンがないと暮らせない」ではなく、スマートフォンやAI、ドローンを使った新しいモビリティをご紹介します。

ノスタルジーとテクノロジーを両立させて、枕崎の未来へ出発進行します。

果ての鉄道の未来

鉄道の未来を考える

枕崎の未来にとって、鉄道はどういう存在でしょうか。今後も学生と鉄道ファンが利用するだけの存在でしょうか。過去の栄華はいざ知らず、鉄道と地域の未来はどうあるべきでしょうか。自家用車が無くても安心して暮らせるよう、持続可能性の高い鉄道や公共交通について、今こそ市民一人一人が考えなければなりません。



このエリアでは、ラ・サール学園の鉄道研究会を中心とした生徒の皆さんが考えてくれた未来の枕崎の模型や、送迎ルートなどにAIを活用したオンデマンド型の乗り合いサービスなど、さまざまな提案が展示されています。

世界の果ての鉄道に学ぶ

枕崎は、世界を見渡す地です。世界で評価されている日本食を支えているのは、枕崎の鯉節、焼酎、黒豚、日本茶です。

世界の果ての鉄道を見渡せば、それぞれの土地の事情と知恵が学べます。

このエリアでは、ロシア、ムルマンスク州にあるムルマンスク駅やアメリカ合衆国、アラバカ州にあるフェアバンクス駅など、世界各国の「果ての鉄道」を焦点に、どのように発展し、現在ではどのように利用されているかなどを展示し、これからの鉄道がどうあるべきかのヒントを探ります。



果ての鉄道展イベント情報

現在行っている展示のほか、開催期間中は楽しいイベントを実施します。

- 会期 10月31日(火)まで
- 観覧料 一般 800円、高校・大学生 600円、中学生以下 無料
- 日時 9月16日(土)、9月17日(日)、10月19日(木)、10月20日(金) (いずれも午前10時〜約45分)
- 会場 南浜館パフォーマンス広場
- 日時 9月16日(土)、17日(日) ①午前10時〜11時30分 ②午後1時30分〜3時

企画統括の川西が展示を説明します!

【バス】運転会

問合せ 南浜館 TEL 72-9998